

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	食に関する指導事業		
事業担当	学校教育部 学校給食課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'03	健康・安心・福祉力 その人らしく安心して暮らせる生活を支援する	
	'02	2 多様な地域課題に的確かつ総合的に対応する地域密着のサービスを充実する	
根拠法令等	食育基本法		
対象・受益者	児童	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
児童・生徒一人一人が、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を習得しています。		正しい食事のあり方や望ましい食生活を身につけるため、給食時間や総合学習等の時間を利用して食に関する指導を行います。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名	食に関する指導実施回数			単位	回
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	450	800	1000	1000	
	実績	957	690	732		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	残食率			単位	%
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	10	10	9	8	
	実績	7.3	8	6.8		
成果指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	：若干遅れている					
	遅れている理由	栄養士の臨時職員が多かったことで給食時間の指導ができなかったため				
平成26年度の主な取組と成果						
各学校において食に関する指導の年間計画が作成され、家庭科、学級活動、総合的な学習等の授業での食に関する指導が定着したことで、正しい食事のあり方や望ましい食習慣の習得につながりました。						
平成26年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	孤食や朝食の欠食、栄養の偏りや不規則な生活により肥満や生活習慣病の増加、過度の痩せといった問題等が生じているため、必要性が高い事業です。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	子どもたちが健全な心と身体を培う上で正しい食事のあり方や望ましい食生活を指導するのは有効です。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼすこの時期に正しい知識を身につけるため指導を行うことは妥当です。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	年間を通じた指導の計画をつくり、計画的に実施しているため効率性が高い事業です。	高中低
今後に向けた課題の分析 経験の浅い臨時栄養職員が年間計画に沿った指導ができるよう、栄養教諭によるフォロー体制の強化が必要です。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		食に関する指導の実施	食に関する指導の実施	食に関する指導の実施	食に関する指導の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		-	-	-	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針 指導計画に沿って、食の指導が実施されるよう研修等や正規職員によるフォロー体制を確立します。
課長コメント 栄養教諭の配置増に伴い、食教育ネットワークの充実に努め、食の指導に取り組むことにより、正しい食生活への理解を深めるとともに食事の重要性を伝えたいと考えます。